



G20「アフリカとのコンパクト」の可能性を引き出すために

クリスティーヌ・ラガルド

2018年10月30日



コートジボワールのアビジャンにある発電所。インフラを含め、開発金融機関は大規模投資プロジェクトの設計と資金供給に自らの広範な専門知識を用いて貢献することができる
(写真: Thierry Gouegnon/Reuters/Newsom)

アフリカ大陸ではどのように民間投資を促進し、雇用を生み出すかが重要な課題となっていますが、「アフリカとのコンパクト」はこの問題に焦点をあてています。このコンパクトが秘める可能性を十分に引き出すためには、あらゆる関係者が役割を果たす必要があります。

「アフリカとのコンパクト」の中心にある考えはシンプルです。民間投資を呼び込むために行う経済やビジネス、金融セクターの改革を支えるために、アフリカ諸国と国際機関、G20 諸国の二国間パートナーがより緊密に連携するプラットフォームをつくることです。

この「アフリカとのコンパクト」が立ち上げられたのは、ベルリンのサミットにおいてでした。それから1年と4か月が経過したこのタイミングで、コンパクト諸国と国際的なパートナーが「アフリカとのコンパクト」の完全な実行のために十分な取り組みを行っているのか、そして、さらなる進歩を実現できる点は何か、私たちは自らに問いかけることができるでしょうし、また、そうすべきでしょう。

出発点は経済の強化

コンパクト諸国は経済安定性を強化するための政策を導入してきています。こうした政策は民間投資を誘致するための重要な柱です。

コンパクト諸国の成長見通しは概ね良好です。しかし、エジプトやエチオピア、ガーナを含めて多くの国々で公的債務が高水準にあり、公共投資を拡大しようにも、財政面での制約が生じています。さらなる融資を受ける余地が限られているため、さらなる公共投資の原資を捻出するために政府は国内で歳入を拡大し、公的支出の効率性を高める必要があります。

ビジネス環境と資金調達の枠組みの改善をもたらす変化

民間投資家が求めているのは、ビジネス環境の制度面からの改善で、諸手続きの効率化、規制の確実性、法廷の効率性、透明性などです。金融セクターが強固で、その発展が進んでいると、資本市場が深化し、融資を受ける機会も拡大するでしょう。

民間投資にとって同じくらい重要なのは、政府とパートナーの間の連携です。ガーナやモロッコなどの国々では、こうした連携がこれまで非常に効果的でしたが、他の国々ではそれほど有効ではありませんでした。「アフリカとのコンパクト」のもとで国別に約束された意欲的な改革を実行するためには、アフリカ諸国が自ら率先的に行動する必要があります。その一方で、コンパクトのパートナーは、アフリカ諸国が取り組みを進めている間、十分な能力と資金を持てるように支援と関わりを拡大するべきでしょう。

民間投資を活かすためには、開発パートナーがリスク緩和策など綿密に設計された公的な支援を提供する必要があります。G20 諸国に対して開発金融機関がさらに関与するようになっており、これは歓迎されます。こうした機関は大規模投資プロジェクトの設計と資金供給に自らの広範な専門知識によって貢献することができます。

民間投資を呼び込むための努力を強化

民間投資を誘致するためには、最近の「ドイツ・ガーナ投資家バーチャルフォーラム」で示されたように、民間投資家と国々を直接結び付ける必要があります。他の G20 諸国もこの分野での取り組みを強化することができるでしょう。例えば、コンパクト諸国と潜在的な投資家が集まる機会となる説明会やピア・ラーニングのイベントを開催する資金を提供できます。

もちろん、こうした改革はどれであっても時間がかかりますし、主体的な取り組みが必要です。プロジェクトをどれほど迅速に開発し実行できるか、また、一部の場合には、政治的な反対をどのように乗り越えるかについて、現実的に考えなければいけません。しかし、意義ある経済的な改革がもたらしうる利点は待つだけの価値があります。

「アフリカとのコンパクト」を積極的に支援する IMF

IMF は民間投資の拡大を促進できるように、マクロ経済やビジネス、金融の強力な枠組みを構築するため、コンパクト諸国との緊密な協力を継続していきます。私たちはコンパクト国全 12 か国

との政策対話を続けていきますが、こうした国々のうち、10 か国で IMF が支援するプログラムが展開されています。

私たちが行っている能力開発では、重要な公的機関の強化に向けた取り組みが行われています。2017 年から 2018 年にかけて IMF は 129 の技術支援ミッションをコンパクト諸国に派遣し、1,700 人以上の政府職員が税務行政や公共投資管理能力、金融セクター監督などの分野で研修を受けました。

ウィン・ウインの協力

「アフリカとのコンパクト」は先進国・地域と発展途上国が現実主義的な「ウィン・ウイン」の協力を進めるプロセスであり、私たちはこの取り組みを積極的に支援していきます。現在のコンパクト諸国における成功がアフリカ大陸中にこのイニシアティブを拡大するための土台となるでしょう。

最後に 1 点、お伝えしたいことがあります。コンパクト 12 か国では、今後 10 年に 1 億 4,000 万人の子どもたちが成年に達する予定です。こうした子どもたちの未来を考えると、民間投資の促進は抽象的な概念ではありません。こうした子どもたちが生産的な雇用に就き、その結果としてアフリカが人口ボーナスを活かせるようにするためには、民間投資を促すことが必須です。雇用創出という課題に失敗することは選択肢として存在しません。そして、成功するためのツールと施策を私たちは持っているのです。

これまでの数週間、IMF は世界経済について気を緩める時ではないと訴えてきました。潮に流されるのではなく、舵をとる必要があるのです。「アフリカとのコンパクト」についてもこの点は同じです。その可能性を完全に引き出すためには、改革を志向するアフリカ諸国と国際機関、G20 のパートナーがともに船を進めるべきなのです。



クリスティーヌ・ラガルドは、国際通貨基金専務理事。1 期目の 5 年間で終了し、2016 年 7 月に 2 期目に再任命。フランス国籍。2007 年 6 月から 2011 年 7 月まで同国の財務相。また、それ以前に 2 年間、対外貿易担当相も務めた。

反トラスト法、労働法弁護士として多方面で活躍。ベーカー&マッケンジー国際法律事務所のパートナーとして活躍し、1999 年 10 月には同事務所のチェアマンに就任。2005 年 6 月にフランスで初の入閣を果たす。ラガルド氏は、政治学院とパリ第 10 大学ロースクールで学位を取得。パリ第 10 大学ではベーカー&マッケンジー事務所勤務前の 1981 年に講義を行った経験も有する。

より詳細な経歴は[こちら](#)でご確認ください。